

八甲田山の火山活動解説資料（令和元年12月）

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図1）

監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。

・ 地震や微動の発生状況（図2、図3）

29日から30日にかけて、大岳山頂の南約3km、深さ約1km付近を震源とする火山性地震が一時的に増加し、22回観測しました。この領域では、2018年4月10日に日回数22回を観測するなど、これまでも一時的な地震の増加がみられています。その他の期間、火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図4、図6）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

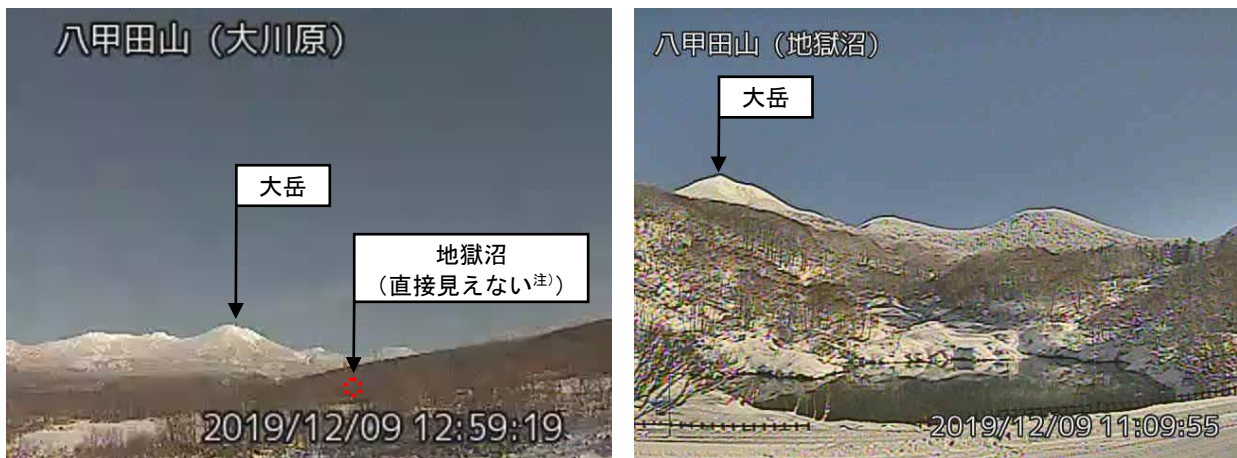


図1 八甲田山 山頂部及び地獄沼周辺の状況（12月9日）

- ・ 左図：大川原監視カメラ（大岳の西南西約6km）の映像です。
- ・ 右図：地獄沼監視カメラ（地獄沼の西約100m）の映像です。

注）地獄沼から噴気が出た場合、大川原では高さ100m以上のときに観測されます。
赤破線が地獄沼の位置を示します。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（令和2年1月分）は令和2年2月10日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び青森県のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

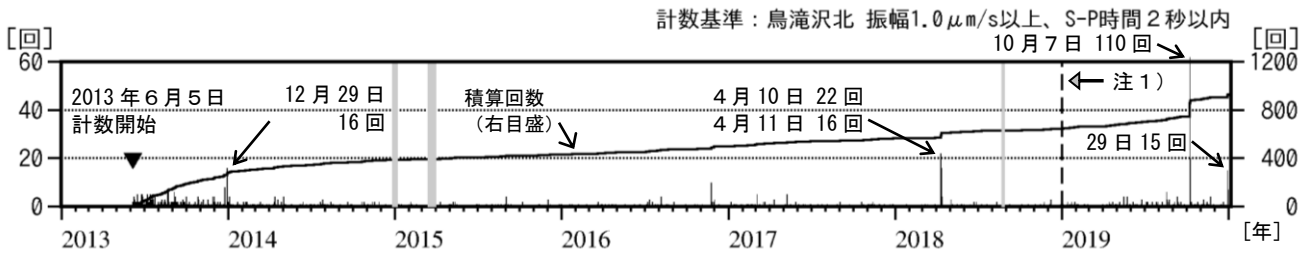


図2 八甲田山 日別地震回数（2013年6月～2019年12月）

- ・ 計数基準の変遷は次のとおりです。変更に伴い検知力が向上しています。
 計数開始 2013年6月5日～ 青森県沖揚平観測点 振幅 $1.0 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間2秒以内
 注1 2019年1月1日～ 鳥滝沢北観測点 振幅 $1.0 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間2秒以内
- ・ 灰色部分は欠測を表しています。

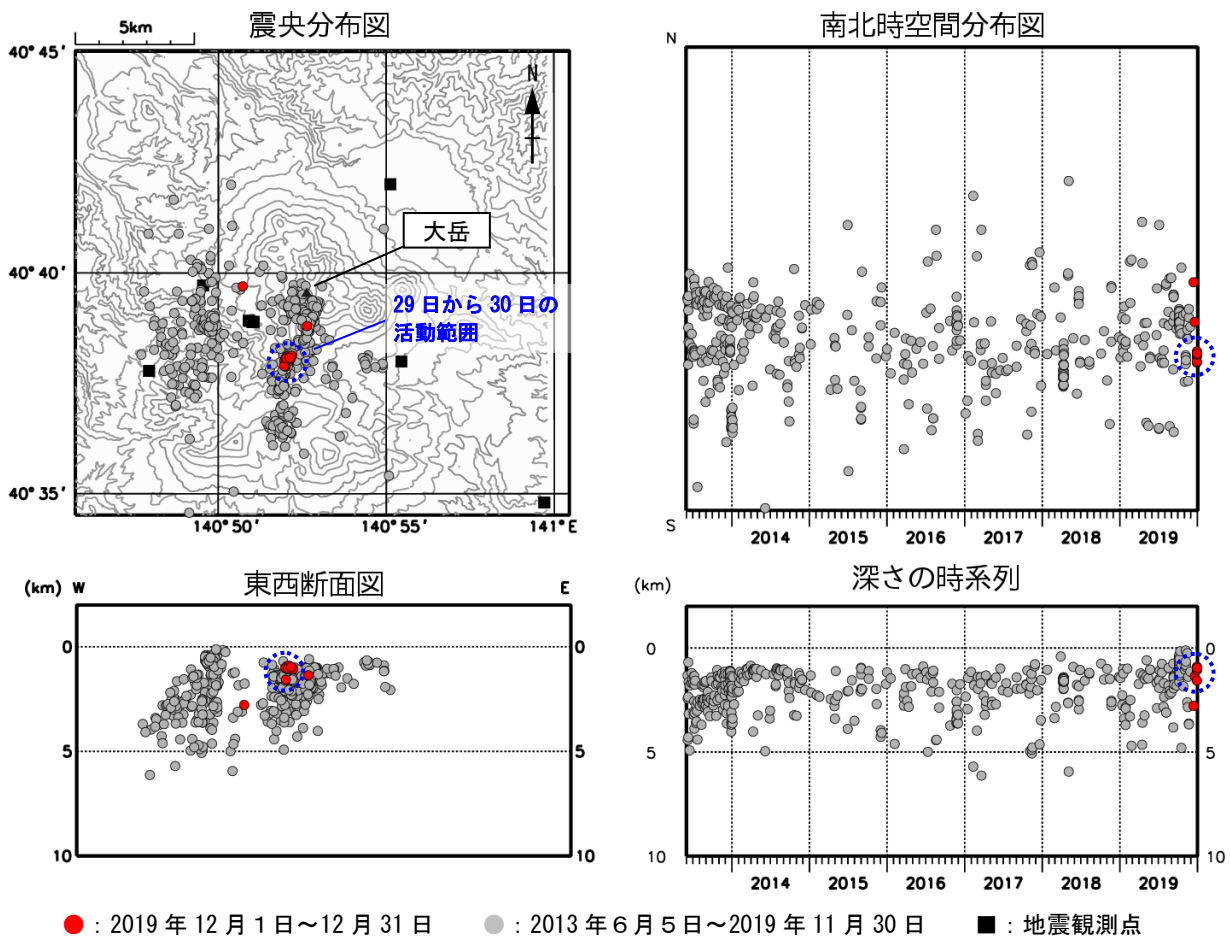


図3 八甲田山 地震活動（2013年6月～2019年12月）

- ・ 今回の活動範囲は、大岳山頂の南約3km、深さ約1km付近（青破線）と推定されます。

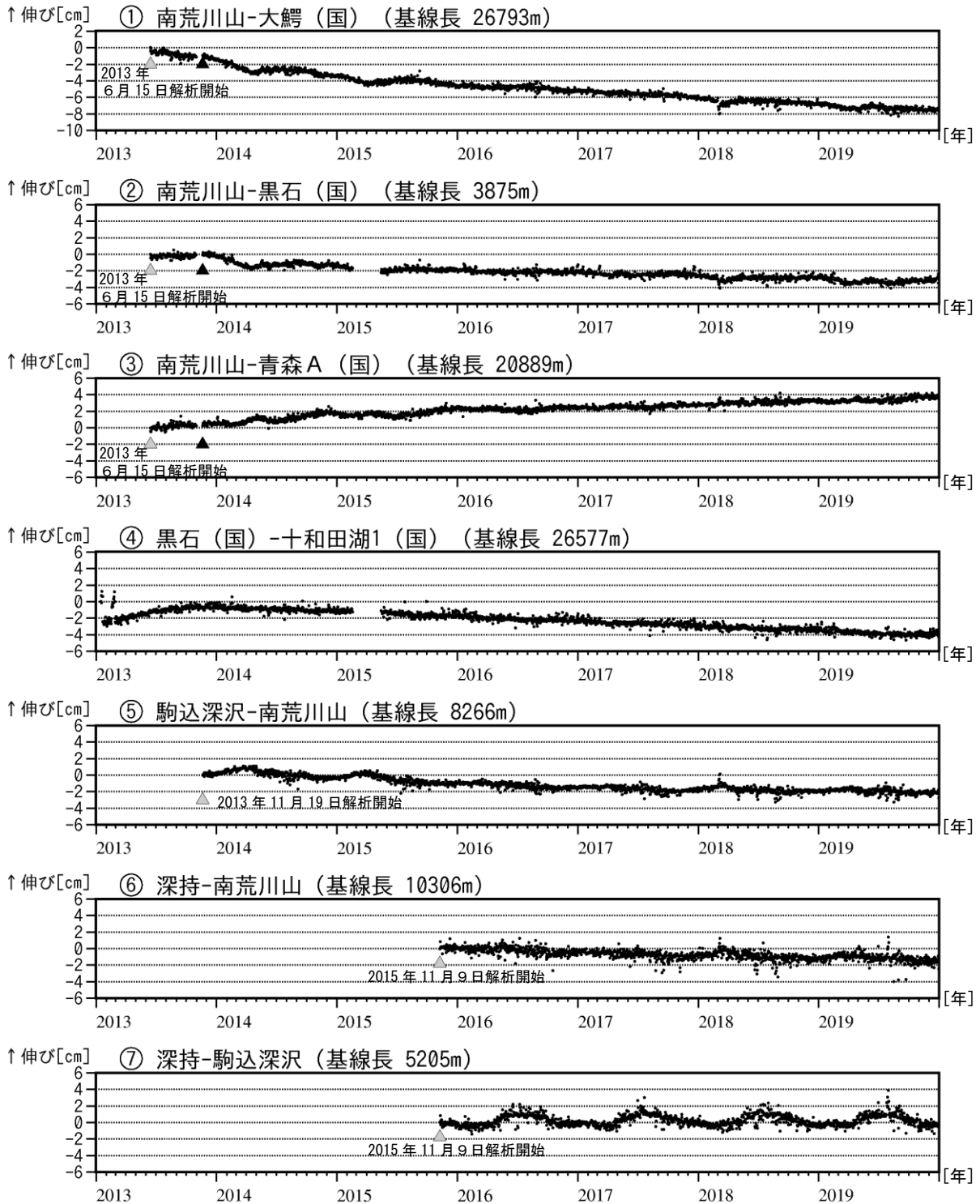


図4 八甲田山 GNSS 基線長変化図 (2013年1月～2019年12月)

- ・①～⑦は図6のGNSS基線①～⑦に対応しています。
- ・空白部分は欠測を示します。 ・(国)は国土地理院の観測点を示します。
- ▲：2013年11月に南荒川山観測点の機器更新及び移設、解析方法の変更を行いました。

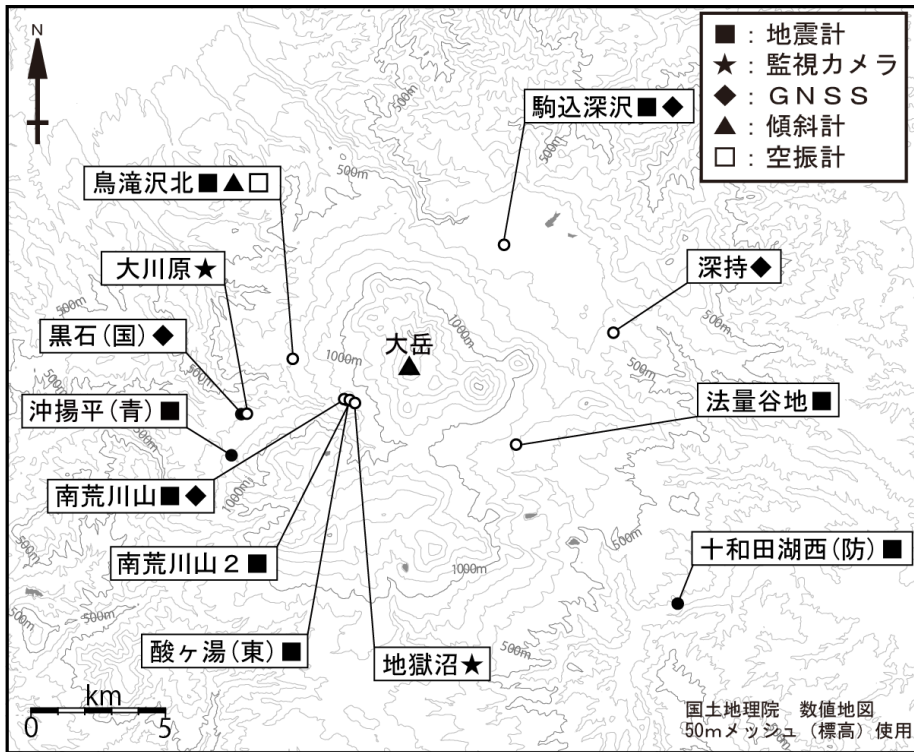


図5 八甲田山 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学 （防）：防災科学技術研究所
（青）：青森県

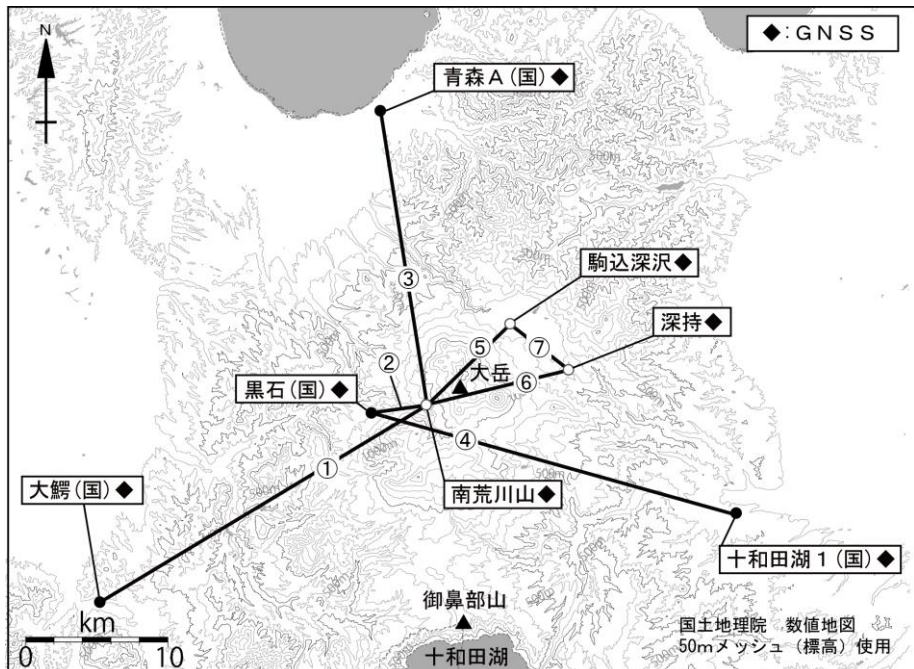


図6 八甲田山 GNSS 観測基線図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院